

令和6(2024)年度 下都賀地区特別支援教育研修会を開催しました

日時 令和6(2024)年8月2日(金) 13:30~16:00

会場 小山市桑市民交流センター(多目的ホール)

対象 下都賀地区小・中・義務教育学校教員

(希望者:特別支援教育担当教員や通常の学級の担任等)

1 研修の目的・内容

(1) 目的

事例等を通じた具体的な研修を行うことにより、通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒に対する個に応じた支援の充実に資する。特に通常の学級に在籍する自閉症やその傾向のある児童生徒に対する理解と対応に焦点を当てて研修を実施する。

(2) 内容

ア 講話 自閉症のある児童生徒の理解

下都賀教育事務所 庄司 秀樹 インクルーシブ教育エリアコーディネーター

イ 分科会 課題解決に向けての班別協議

2 本研修で確認したこと

(1) 特別支援教育の推進について

ア 栃木県の取組:栃木県教育振興基本計画 2025(特別支援教育の充実)

イ 下都賀地区の取組:下都賀地区学校教育の重点

「一人一人の教育的にニーズに応じた特別支援教育」

(2) 通常の学級における特別支援教育の推進

自閉症について

○インフルエンザ

→インフルエンザウイルスが原因で発熱や喉の痛みと行った症状が出る

○自閉症

→自閉症というものが子どもの中にあり、こだわりや感覚過敏等の行動を引き起こすわけではない

似たような状態像の人がいる そのような状態像に「自閉スペクトラム症」と名付けた

自閉症は治せないが、
うまく付き合うようになることはできる



子どもの発達と自閉症

① 感覚がまとまりにくい

- ・まとめあげるのが苦手だから、やることを決める
- ・一度まとめあがったら崩したくない 一度決めたら他の選択肢はない
- ・感覚がまとまらなさそうな場合やらない など

- ・活動内容をあらかじめ伝えておく
- ・子どもの感じていることを言葉にして返す
例)「給食の時間が近づいてきたね。おなかが空いてきたね」
楽しい場面で「楽しいね」 くやしい場面で「くやしいね」
- ・『せねばモード』になったらどうするか、本人の意見をあらかじめ聞いておく

「感覚がまとまりやすい文化」とうまく付き合えるよう支援する

② 裏がわからない

- ・屋上からから1階まで確かめてから部屋に入る
- ・「プレゼントはいやだ、中に何が入っているかわからないから」
- ・「そこ」「向こう側」「右」「左」「向かって右・左」がわからない
- ・1列に並べない など

- ・時間のある時に一緒に「裏」を確かめる。確認したら言葉で返す
例)「ここには何もないね」「危ないから気を付けよう」
- ・場所の指示は明確にする (迷っていたら具体的に場所を示す)
- ・裏が気になる場合は、何らかの不安を感じていると考え、声掛けをする

「裏側を知らなくても済む文化」とうまく付き合えるように支援する

③ 人が侵入してくる

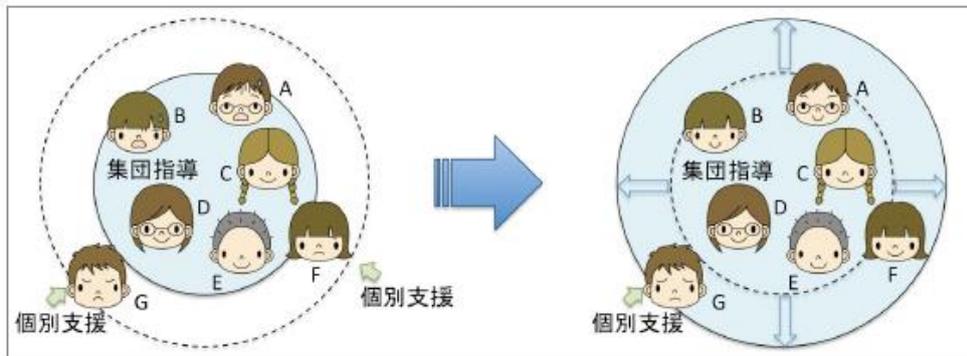
- ・視線が怖い。相手の目が見られない
- ・人が大勢いるところを避ける
- ・わざとふざけて指示を聞かない
- ・他の子が怒られているときに自分が怒られているように感じる など

- ・まずは子どもの気持ちを受け止める
- ・ささやかな成功を認める
- ・うまくいく場面を設定し、達成感を味わわせる
「うまくいってもいなくても、自分は自分」と思えるようにする

「人の侵入をそれほど感じない文化」でも安心できるよう支援する

自閉症のある児童生徒への対応の基本

- ・分かりやすさと安心感が大切
- ・集団指導を進める一方で、「困難」を感じる児童生徒に対する個別支援を行う
- ・集団指導（学級づく・授業づくり）と個別支援のバランスを考える必要がある



「困難」を感じている児童生徒全員を視野に入れ、「一人一人を大切にされた集団づくり」を進める際のイメージを表したもの

イラスト：わたなべふみ

[講話]

- ・「全体の児童への支援が児童の安心につながり、その上に特別な支援を重ねる」というお話にとっても納得した。
- ・今後も子どものうまくいっているところを生かしつつ、広げて生きたいと思った。
- ・その子のよさを引き出し、また、その子に返すことをできるだけ増やしていきたい。
- ・自閉症は治せないが、うまく付き合うことができるようになるということは基本の考え方だと感じた。
- ・「障害は文化」という言葉がずっと心に入ってきた。そもそも文化が違うので、わかり合えるのには時間がかかるのだと改めて理解できた。
- ・自閉症は治すのではなく、育てるという感覚を大切に、子どもたちと接していきたい。
- ・障害の有無に関係なく、お互いを理解できるよう学級経営を大切にしていきたい。
- ・家での家族との関わりと、学校での多人数での関わりの中では、児童の困り感が違うということを保護者に理解してもらわないと指導が難しいと感じた。まずはどの児童にとっても学校が楽しいと思えるよう、児童との対話を大切にして、育てる教育を心掛けていきたい。
- ・保護者や学校の先生方とチームになって、子どものために指導・支援を考えていきたい。
- ・自身のこれからに生かすのはもちろん、今回研修に参加していない本校の先生方にも共有し、今回学んだ自閉症の子の視点を持ってもらいたい。

[分科会]

- ・今直面している状況だけでなく、今後起こるかもしれない状況にも具体策を考えることができた。
- ・班別協議では、立場の違う先生と情報を共有し、言葉かけや支援の仕方等、実際に試してみたいと思う事ができた。
- ・同じような悩みを抱えている先生方の実践や取組を聞くことができ大変参考になった。子どもたちが自分らしさを安心して発揮できるよう、学級経営や分かりやすい授業づくりを目指していきたい。
- ・一人一人が輝けるクラスをつくっていけるよう、子どもたちと共に成長していきたい。
- ・本人や保護者の困り感に寄り添った支援の必要性、担任だけでなく、学校や諸機関との連携をとりながらチームで対応することが大切であると再確認できた。